

ねん がつごう くらーずあっぷ
■れすばす 2020 年 11 月 号 クローズアップ

しゃかいふくしほうじん にほんこくさいしゃかいじぎょうだん
社会福祉法人 日本国際社会事業団 (ISSJ)

だれ じぶん い しゃかい めざ ひとり よ そ しえん
～ 誰もが自分らしく生きられる社会を目指して、一人ひとりに寄り添う支援を～

こんげつ くらーずあっぷ しゃかいふくしほうじん にほんこくさいしゃかいじぎょうだん
今月のクローズアップは、[社会福祉法人日本国際社会事業団 \(ISSJ\)](#)を

しょうかい ひとびと こっきょう こ しょう ふくしぶん
ご紹介いたします。ISSJは、人々が国境を越えることで生じるさまざまな福祉分
や そうだん おう だんたい せかい かこく ねっとわーく も こくさい
野の相談に応じている団体です。世界 140カ国にネットワークを持つ国際 NGO、

にほんしぶ かこくしぶ たい
International Social Service (ISS) の日本支部として、ISS の各国支部のほか、大
しかん じどうふくし ちいきふくしかん けい きかん びょういん がっこう れんけい
使館、児童福祉・地域福祉関係機関、病院、学校などと連携しながら、

そうだんしゃひとり よ そ しえん おこな めざ う
相談者一人ひとりに寄り添う支援を行っています。ISSJ が目指しているのは、生ま

そだ かんきょう こくせき しゃかい なか よわ たちば お ひと
れ育った環境や国籍などによって社会の中で弱い立場に置かれがちな人
びと じぶん い ちゃんす しゃかい じつげん じょうむ
々が、自分らしく生きるチャンスをつかむことができる社会を実現すること。常務

りじ いしかわみえこ そーしゃるわーかー えのもとゆうこ かつどう
理事の石川美絵子さんとソーシャルワーカーの榎本裕子さんに、ISSJ の活動につ

はなし
いてお話をうかがいました。



いしかわ ぜんれつちゅうおう
石川さん(前列中央)と

えのもと ぜんれつひだり
榎本さん(前列左)。

ささ すたっふ みな
ともに ISSJ を支えるスタッフの皆さんと。

せつりつ けいい き
Q. ISSJ 設立の経緯をお聞かせください。

いしかわ だいにじせかいたいせんご ねん ちゅうりゅうぐんへいし にほんじんじよ
A. 石川さん: 第二次世界大戦後の1952年、駐留軍兵士と日本人女
 せい あいだう こ おも あめりか かてい ようしえんぐみ ほっそく
 性の間に生まれた子どもを、主にアメリカの家庭に養子縁組するために発足し
 にちべいこじきゅうさいごうどういいんかい ぜんしん どういいんかい ねん
 た日米孤児救済合同委員会がISSJの前身です。同委員会は1955年
 こ ふくし かつどう こくさい
 に子どもの福祉のために活動する国際NGO、International Social Service(ISS)
 ほんぶ じゅねーぶ にほんしぶ こっきょう こ ふくしえんじよかつどう ほんかくし
 (本部:ジュネーブ)の日本支部となり国境を越える福祉援助活動を本格始
 とう ねん しゃかいふくしほうじんにほんこくさいしゃかいじぎょうだん こうせい
 動、1959年に社会福祉法人日本国際社会事業団(ISSJ)として厚生
 しょう にんか いま いた ねんだいこうはん いたく いんど
 省に認可され今に至ります。1970年代後半にはUNHCRの委託によりインド
 しななんみん えんじよかつどう すたーと ねんだい はい きゅうぞう にゅーかまー
 シナ難民の援助活動をスタート、1980年代に入ると急増したニューカマー
 かか もんだい しえん おこな しゃかい うつ か ともな
 が抱えるさまざまな問題について支援を行うなど、社会の移り変わりに伴う
 にーず へんか おう しゃかいふくし げんば たずさ つづ げんざい
 ニーズの変化に応じながら社会福祉の現場に携わり続けてきました。現在
 そうだん たいおう こくさいふくし せんもんちしき も そーしゃるわーか
 ISSJで相談に対応しているのは、国際福祉の専門知識を持つソーシャルワーカー
 ー ふいりびん たいしゅつしん すたっふ かつこくしぶ べんごし たいし
 ーとフィリピン、タイ出身のスタッフたちです。ISS各国支部のほか、弁護士、大使
 かん じどうそうだんじよ ほけんせんたー びょういん がっこう えすにつくこみゆにてい れん
 館、児童相談所、保健センター、病院、学校、エスニックコミュニティなどと連
 けい そうだんしゃひとり よ そ しえん おこな
 携しながら、相談者一人ひとりに寄り添う支援を行っています。

つう ようしえんぐみ ようし るー
 ISSJを通じて養子縁組した養子のルー

つさが しえん かぞく どいつ らい
 ツ探しを支援。家族とともにドイツから来

にち じつば さいかい は
 日して実母との再会を果たしました。

© ISSJ



げんざい かつどうないよう おし
Q. 現在の活動内容を教えてください。

いしかわ ようしえんぐみしえん がいこく こ かぞく しえん おも
A. 石川さん:「養子縁組支援」と「外国につながる子どもと家族の支援」が主な

じぎょう かつどう げんてん ようしえんぐみ しえん にほん にゅうじ
事業です。ISSJの活動の原点でもある養子縁組の支援では、日本の乳児
いん じどうようごしせつ く こ にほんじんかてい にほんざいじゅう がいこく
院や児童養護施設で暮らす子どもを日本人家庭もしくは日本在住の外国
じんかてい むか い しえん ようし ひと る一つさが
人家庭に迎え入れてもらう支援をするほか、養子となった人からのルーツ探しの
そうだん たいおう がいこく こ かぞく しえん にほん
相談にも対応しています。また、外国につながる子どもと家族の支援では、日本
く なんみん いじゅうしゃ ちいき いちいん あんしん く せいかつそう
で暮らす難民や移住者が地域の一人として安心して暮らせるよう生活相
だん かていほうもん かうんせりんぐ おこな むこくせきじょうたい こ こく
談・家庭訪問・カウンセリングなどを行うほか、無国籍状態にある子どもの国
せき しゅとく しえん こくさいりこん ベっきょ いた りょうしん こ めん
籍を取得するための支援や、国際離婚・別居に至った両親と子どもの面
かいこうりゅう じつげん しえん おこな
会交流を実現するための支援も行っています。

かつどう とく ころう てん
Q. 活動において特に苦勞されている点がありますか。

いしかわ よ そうだん ねんかん かいじょう さくねんどじつせき
A. 石川さん:ISSJに寄せられる相談は年間6000回以上(昨年度実績)に
そうだんしゃ はいけい たようか そうだん ないよう ふくざつ ふくごうてき
なりますが、相談者の背景が多様化し、相談の内容も複雑かつ複合的に
いじゅうしゃ せいかつしえん こくせきしゅとく しえん ようし
なっています。これまでは「移住者の生活支援」「国籍取得の支援」「養子
えんぐみ しえん そうだん ないよう おう ぶんや とくい そーしゃるわーか
縁組の支援」など、相談の内容に応じてその分野を得意とするソーシャルワーカー
ー たいおう さいきん そうだんしゃ たい ふくすう わーかー
ーが対応していたのですが、最近ではひとりの相談者に対して複数のワーカーが
ちけん きょうゆう ほうかつてき しえん ひつよう
知見を共有しながら、包括的な支援をしていくことが必要になっています。

えのもと はいぐうしゃ がいこくせき じょせい にんしん そうだん う
A. 榎本さん:たとえば配偶者のいない外国籍の女性から妊娠の相談を受
けーす あんぜん ぶじ しゅっさん かくほ さいゆうせん つぎ す
けたケースでは、安全で無事な出産を確保することを最優先にしつつ、次のス
てっぴ かんが う こ ははおや にほん そだ
テップも考えていかなければなりません。生まれた子どもは母親が日本で育てるの
ぼこく もど そだ にほん ぼこく こそだ にな
か、あるいは母国に戻って育てるのか。日本もしくは母国に子育てを担ってくれる
しんるいえんじや ようしえんぐみ しゃ い ひつよう こ こく
親類縁者はいるのか。養子縁組を視野に入れる必要はあるのか。子どもの国
せき そうだんしゃ ぼこく ほうりつ かんしゅう そうだん
籍はどうなるのか。相談者の母国の法律や慣習はどうなっているのか。相談

しゃ よ そ しえん しら
者に寄り添う支援をするためには、調べなければならないこと、やらなければならないこと
がたくさんあります。



じむしょ らいほう じょせい そうだん
事務所に来訪した女性の相談にのる

そーしゃるわーかー
ISSJのソーシャルワーカー

© ISSJ

こ こくせきしゅとく しえん むこくせきじょうたい
Q. 子どもの国籍取得の支援をされていますが、なぜ無国籍状態になるのでしょうか。

えのもと にほんじん はいぐうしゃ がいこくせき じょせい にほん しゅっさん
A. 榎本さん: 日本人の配偶者をもたない外国籍の女性が日本で出産し
ばあいう こ にほん こくせき しゅとく ざいにち
た場合、産まれた子どもは日本の国籍を取得することができません。そのため在日
がいこくこうかん こ しゅっしょう とど でははおや くに こくせき しゅとく
外国公館に子どもの出生を届け出て母親の国の国籍を取得しなければ、
こ むこくせきじょうたい にほん やくしょ しゅっしょうとどけ
子どもは無国籍状態となってしまいます。ところが日本の役所に出生届を
ていしゅつ こ ざいりゅうカード じゅうみんひょう ははおや くに こくせき
提出すると、子どもの在留カードや住民票に母親の国の国籍がそのま
きさい ばすぽーと しんせい しゅうしょくかつどう けっこん
ま記載されるため、パスポートの申請や就職活動、結婚などにあたり、はじめ
じぶん こくせき き お え
て自分に国籍がないことに気づくといったことが起こり得るのです。

いしかわ こくせき こんなん
A. 石川さん: 国籍がないことの困難というのはなかなかわかりづらいかもしれませんが
とうじしゃ どうぜんほしょう けんり そうしつ じょうたい
が、当事者にしてみれば、当然保障されるべき権利を喪失している状態であ
おお もんだい もんだい べんごし そうだん
り、とても大きな問題です。ISSJでは、この問題にくわしい弁護士と相談しながら

こくせきしゅとく てつづ すす とうじしゃ そうだん くわ せいかつほご
国籍取得の手続きを進めています。当事者からの相談に加え、生活保護や
ひがいしゃ しえん やくしょ じどうそだんじょ じどうようごしせつ しょくいん
DV被害者の支援にあたる役所や、児童相談所・児童養護施設などの職員
むこくせき き と あ けーす ふ
が無国籍であることに気づいて問い合わせしてくるケースも増えています。

がいこく かぞく あうとりーち
外国につながる家族へのアウトリーチとし

こみゆにてい ほうもん そうだんしえんじ
てコミュニティを訪問し、相談支援事

ぎょう にーず き と
業のニーズを聞き取ります。

© ISSJ



しんがたころなういるす えいきょう う がいこくじん きんきゅうしえん おし
Q. 新型コロナウイルスの影響を受けた外国人への緊急支援について教えてください。

いしかわ かんせんかくだい しんこくか がつじょうじゅん た こま
A. 石川さん: 感染拡大が深刻化した4月上旬から「食べものに困っている」
そだん あいつ じよせいきん かくほ なんみん こみゆにてい
という相談が相次ぐようになったため、助成金を確保して難民のコミュニティに
やさい こめ ぱっく おく しょくりょうしえん じっし たす
野菜とお米のパックを送る食糧支援を実施しました。「これまで助けてくれてい
ゆうじん せいかつ くる たよ こえ かずおお
た友人たちも生活が苦しくなって、もう頼ることができない」という声を数多く
き えすにつくこみゆにていない そうごふじょ しすてむ ころなか きのう
聞き、エスニックコミュニティ内の相互扶助のシステムがコロナ禍で機能しなくなってい
じっかん がつ いっせいきゅうこう えいきょう かにがくしゅう
ることを実感しました。また、3月からの一斉休校の影響で家庭学習の
ひじゅう たか にほんご べんきょう み いえ かんきょう
比重が高まったため、「日本語で勉強を見てあげられない」「家にIT環境が
ととの なや かか なんみん なんみんしんせいしゃ こ
整っていない」といった悩みを抱える難民や難民申請者の子どもたちへの
きょういくしえん すたーと ききん きぎょうさま きょうりよく え ひつよう おう
教育支援もスタートさせました。基金や企業様の協力を得て、必要に応

るーたー かしだし おこな ぼらんていあ こ おんらい
じて WiFiルーターや PC の貸出を行 うとともに、ボランティアが子どもたちのオンライ
んがくしゅう しえん
ン学 習 を支援しています。

えのもと ころな かんれん ふめい がいこくせき じよせい にんしん しゅつ
A. 榎本さん:コロナとの関連は不明ですが、外国籍の女性からの妊娠・出
さん かん そうだん ことし はるさき 心 きんきゅうじたいせんげん よ なか
産に関する相談も今年の春先から増えました。緊急事態宣言で世の中の
うご と そうだん さき びょういん かくほ しゅつさん
動きが止まり、相談できる先がなかったのかもしれない。病院の確保、出産
じゅんび しゅつさんご かくしゅとどけで いくじ こりつ あんしん おこな よ
の準備、出産後の各種届出や育児を孤立せずに安心して行えるよう寄
そ しえん
り添いながら支援しています。



ころなか えいきょう う なんみんこみゆにてい
コロナ禍で影響を受けた難民コミュニティに

しょくりょうしえん じっし しょくじ せいやく
食糧支援を実施。食事に制約のある

むすりむ ひとびと やさい こめ はいふ
ムスリムの人々に野菜と米を配布しました。

© ISSJ

こんご かつどう てんかい おし
Q. 今後の活動の展開について教えてください。

えのもと ようしえんぐみご かぞく たい しえん じゅうじつ
A. 榎本さん:ISSJ では養子縁組後の家族に対する支援を充実させていき
かんが せんよう うえがさいと こうかい よてい よう
いと考 えており、まもなく専用のウェブサイトを開 発する予定です。ISSJ では養
し ようしん るーつさが そうだん たいおう igaい だんたい とお
子や養親からのルーツ探しの相談に対応していますが、ISSJ以外の団体を通
ようし ひと じゅうぶん きろく じつ おや けー
して養子になった人については、十分な記録がなく実の親にたどりつけないケー
す すく ようし しゅつじ し けんり まも ようしえんぐみご し
スも少なくありません。養子の出自を知る権利を守るためにも、養子縁組後の支

えん しゅほう かくりつ ひつよう かんが
援をきちんと手法として確立する必要があると考えています。

いしかわ がつ がいこく るーつ かぞく こ そうだんしえんおん
A. 石川さん:11月からは、「外国にルーツのある家族と子どもへの相談支援オン
らいんセミナー かいさい よてい げすと せんもんか まね がいこくせきじゅうみん
ラインセミナー」を開催する予定です。ゲストに専門家を招き、外国籍住民へ
そくだん ひつよう きそちしき さいきんふ そくだんじれい しょうかい はなし
の相談に必要な基礎知識や最近増えている相談事例を紹介しながら話
すす かいれんぞく 세미나 かい もうしこ か
を進めていきます。4回連続のセミナーですが1回ずつお申込みいただくことも可
のう がいこくせきじゅうみん そくだんしえん かんけいきかん かた がい
能ですので、外国籍住民の相談支援にあたる関係機関などの方や、外
こく かぞく こ もんだい かんしん かた さんか
国につながる家族や子どもの問題に関心のある方はぜひご参加ください。

がつ がつ つき かいかいさい
11月から2月まで、月1回開催される

おんらいんせみなー ちらし しょうさい
オンラインセミナー」のチラシ。詳細については

こうしきさいと かくにん
ISSJの公式サイトをご確認ください。

